

日本教育メディア学会
学 会 通 信 第 24 号

学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jaems/>
2002 年 2 月 5 日発行

事務局
〒184-8501
東京都小金井市貫井北町4-1-1
東京学芸大学教育学研究室内
電話:042-329-7344
E-mail:shijaems@u-gakugei.ac.jp

【巻頭言】

日本教育メディア学会第8回を終えて

中野 照海

標記大会が、2001年10月6日と7日の2日間、大分県立芸術文化短期大学で開かれました。大会準備委員長吉川喬先生、準備副委員長兼事務局長三宅正太郎先生のご努力によって、滞り無くというより以上に、有意義な成果を上げた大会でした。シンポジウム2件、課題研究発表18件、自由研究発表34件、ポスターセッション2件、ワークショップ(collaborative design)がありました。

会が終わる頃、参加者が異口同音に話していたのは、教育メディア研究らしい発表が増えており、本学会の進む方向が定まってきたようだという感想でした。教育方法や教育学などとの境界がどこにあるかを意識するとき、以前にもこの欄で述べたのですが、現在では、それぞれの研究領域が重複することが多く、それぞれが固有の分野を特定しにくくなっていると記しました。しかし、それでも、例えば、教育学が教育システム全体を対象とするのに対して、教育メディア研究はメディアに焦点をおいて研究・開発するという、両者の相違は、力点の相違であるとししました。こういう脈絡の中で、今回の研究発表に放送教育や、種々のメディアの制作、活用、評価に関する研究が増えたことが、「メディア研究」の領域が確立されつつあるという印象が深かったといえます。

今回の会場は、由布岳、高崎山、別府などが望める位置にあり、美しいキャンパスでした。芸術文化を大学名に冠するだけあって、通常の会場とは雰囲気は違っていました。昼食の休憩時間には、ホールで音楽科専攻の学生によるコンサートがあり、ホテルで開かれた懇親会では、音楽科教授の大島栄子先生によるソプラノ独唱を聞くことができました。大分の地は、豊後水道に面していることから、食材も豊富で、関鯖をはじめ、ふぐ料理も堪能できました。会員の多くの方々にとっては、おそらく1年に一度の、同窓生や友人たちの集いにとっては、絶好の場所でした。多くの学会大会がそうですが、大会が同学の土との旧交を暖める機会としても有意義だと思えます。

大会は2日間だけだったとはいえ、準備と運営に多くの時間と労力を割いて下さった、吉川先生、三宅先生、ご関係の先生方、そして、手伝っていただいた学生の皆さまに、改めて厚く御礼申し上げます。来年度の年次大会は、桐蔭横浜大学(赤堀正宜理事担当)で、10月13日(日)と14日、(体育の日)で開かれます。会員諸兄姉には、今からご参加の準備をされて、多数の方々のご参加を期待しております。〔国際基督教大学・学会会長〕

日本教育メディア学会第8回(2001年度)年次大会報告

三宅 正太郎

本学会の第8回(2001年度)年次大会が、去る10月6日、7日、「21世紀を拓く教育メディアの可能性」というテーマのもと、大分県立芸術文化短期大学において開催された。

今回、同学会では初めての試みとして、公開シンポジウムが行われた。また、従来からの口頭での自由研究発表に加え、ポスター・展示による発表が行われた。発表件数は、シンポジウム、課題研究、自由研究発表、合わせて68件であり、他に1件のワークショップが開催された。以下に、2つのシンポジウムと4つの課題研究の概要を報告する。

シンポジウム「メディアの影響と青少年の教育」(公開)

コーディネータ 三宅正太郎(大分県立芸術文化短期大学)

司会 吉川喬(大分県立芸術文化短期大学)

内容 メディアの正と負の影響、そして、今後のメディアリテラシー教育の在り方について、「送り手の立場」、「受け手の立場」、「受け手を取り巻く環境」の3つの側面から公開形式で討論した。

シンポジウム「IT革命社会における学校教育」

コーディネータ 篠原文陽児(東京学芸大学)

内容 IT革命社会に即した文教施策と地域(松戸市)での対応を紹介し、学校教育におけるハードウェア、ソフトウェア、そしてヒューマンウェアの整備の現状と課題について意見を交換した。

課題研究「デジタル化によって教育放送は変わるか」

コーディネータ 市川昌(江戸川大学)

内容 デジタル化を、「放送と通信の融合による情報環境整備」と捉え、日本の放送教育史を概観しながら、教育放送の不易と流行、そして今後の方向性について討議した。

課題研究「教育におけるバーチャル経験と体験」

コーディネータ 中野照海(国際基督教大学大学院)

内容 バーチャルな経験と実体験との相補性を強調しつつ、教育場面におけるバーチャル・リアリティ技術利用の放送にみる実際と、今後の可能性および課題について議論した。

課題研究「メディアリテラシーの意味と可能性」

コーディネータ 小笠原喜康(日本大学)

内容 メディアを記号の種々の次元から捉えること、制作の視点からの検討、TV番組を利用したカリキュラムの開発、そして、メディアリテラシーのための放送番組開発の実際が発表された。

課題研究「インターネットによる遠隔教育の現状と課題」

コーディネータ 岡部昌樹(金沢経済大学)

内容 学校教育および社会教育の場面における情報通信機器利用の遠隔教育の現状と課題について、エル・ネットと、早稲田大学遠隔授業総合講座を活用した実践事例の紹介を交えて議論した。

〔大分県立芸術文化短期大学・第8回年次大会副委員長〕

平成 13 年度定例総会報告

本学会第 8 回年次大会の第 2 日目である平成 13 年 10 月 7 日（日）午後 12 時 50 分から午後 1 時 20 分に、大会開催校である大分県立芸術文化短期大学の大講義室で、標記の会が開催された。

本学会中野照海会長の挨拶ののち、会長を議長として選出。引き続いて、第 8 回年次大会開催校代表の挨拶があり、以下に示すような報告と審議事項の協議が行われた。

I 報告事項

- (1) 坂元彦太郎記念教育メディア研究奨励賞<該当者なし>
- (2) 研究会の共催 平成 14 年 1 月 26 日（土）教育工学会研究会（名古屋大学）
- (3) 事務局運営等
事務局員（幹事）/吉田広毅（ICU 教育研究所）、井口実千代（東京工大附属工業高校）
- (4) 新編集委員
松野成孝（松戸市教育研究所）、井口実千代
- (5) その他
会費未納者/滞納者の取扱い
学会費等の公費支出に関して
・必要書類の事務局への連絡
・銀行振込の場合の会員名確認連絡

審議事項

- (1) 第 1 号議案 （本通信第 4、5 ページ参照）
「平成 12 年度（2000 年度）事業報告及び収支決算承認の件」<異議無く承認>
<平成 13 年 3 月 31 日現在 正会員 370、学生会員 20、
団体会員 7、購読会員 4>
- (2) 第 2 号議案 （本通信第 6、7 ページ参照）
「平成 13 年度（2001 年度）事業計画及び予算案承認の件」<異議無く承認>
- (3) その他
学会会計年度変更について<引き続き検討事項とする>
なお、平成 14 年度（2002 年度）年次大会（第 9 回年次大会）開催校の挨拶があった。
平成 14 年（2002 年）10 月 13 日（日）、14 日（月、祝） 於：桐蔭横浜大学
〔文責：篠原文陽児〕

学会事務局から

会員名簿発行の基礎資料として「はがき」のご記入と返送のお願い

本年度は、会員名簿発行の年になっております。
つきましては、

平成 14 年 4 月 1 日現在で、
同封の「はがき」の該当する事項すべてご記入の上、
平成 14 年 3 月 8 日（金）（必着）で、

ご返送くださいますように、お願い申し上げます。

なお、今後も、転勤等により連絡先等が変更になった場合には、そのつど早急に事務局あてご連絡くださいますように、重ねてお願い申し上げます。

日本教育メディア学会 平成12年度収支決算書

自：平成12年4月1日 ~ 至：平成13年3月31日

(1) 収入の部

収入項目	収入額	備考
	円	
自己財源	3,698,860	平成11年度会計から繰り入れ
正会員会費	1,092,000	正会員年会費 @ 7,000円として
学生会員会費	20,000	学生会員年会費 @ 4,000円として
団体会員会費	250,000	団体会員 @ 50,000円として
購読会員会費	21,000	購読会員 @ 7,000円として
入会金	22,000	入会金 @ 2,000円として
過年度会費	35,000	平成10、11年度未納正会員
会誌収入	112,000	学会誌収入 35冊分
雑収入	399,880	学会誌別刷代
利子	436	
計	5,651,176	

(2) 支出の部

科目	予算額	決算額	内訳
	円	円	
郵送費	300,000	279,237	学会通信、学会誌郵送費等
消耗品費	80,000	75,567	学会誌関連
会合費	100,000	69,370	理事会関連 (常任理事会) (69,370)
アルバイト費	120,000	160,000	事務局補助 (事務局移転等) (160,000)
印刷費	250,000	283,090	理事会関連 (理事選挙用紙等) (94,818) 事務局関連 (總會委任状等) (62,600) 学会通信印刷費 (2号分) (70,212) 研究会論集印刷費 (55,460)
会開催費	50,000	50,000	教育工学関連合同大会開催補助費 (50,000)
学会誌出版費	1,300,000	1,215,375	学会誌出版費 (2号分) (1,215,375)
交通費	150,000	56,640	理事会・研究会出張旅費 (28,320)
研究会開催補助費	60,000	60,000	研究会開催補助費 (2回分) (60,000)
雑役務費	0	4,810	銀行振込手数料等 (4,810)
その他	0	74,500	慶弔費 (2名分) (51,500) 学会費二重払い返金 (23,000)
計	2,410,000	2,328,589	

本年度収支差額：(収入額) - (決算額) = 3,322,587円 (平成13年度会計に繰り入れ)

(3) 坂元彦太郎記念教育メディア研究奨励賞特別会計収支決算

1999年度からの繰越金（含利子）	701,670
2000年度研究奨励賞金（決算額）	100,420
繰越残高	601,250

なお、本収支決算書は、平成13年9月30日（日）、本学会監事により、適正であると認められた。

日本教育メディア学会 平成13年度予算書

自：平成13年4月1日 ～ 至：平成14年3月31日

(1) 収入の部

収入項目	収入予定額	備 考
	円	
自己財源	3,322,587	平成12年度一般会計から繰り入れ
正会員会費	1,554,000	正会員 @ 7,000 円 × 370 人 × 60%の納入率として
学生会員会費	48,000	学生会員 @ 4,000 円 × 20 人 × 60%の納入率として
団体会員会費	210,000	団体会員 @50,000 円 × 7 団体 × 60%の納入率として
購読会員会費	16,800	購読会員 @ 7,000 円 × 4 団体 × 60%の納入率として
過年度正会員会費	1,047,200	平成12年度以前の会費未納会員 @ 7,000 円 × 374 人 × 40%の納入率として
過年度学生会員会費	35,200	平成12年度以前の会費未納学生会員 @ 4,000 円 × 22 人 × 40%の納入率として
過年度団体会員会費	40,000	平成12年度以前の会費未納団体会員 @50,000 円 × 2 団体 × 40%の納入率として
過年度購読会員会費	0	平成12年度以前の会費未納購読会員
雑収入	360,000	『教育メディア研究』(3号分)別刷代 @12,000 円 × 10 人 × 3 回
計	6,633,787	

(2) 支出の部

科 目	予 算 額	内 訳
	円	
通信運搬費	560,000	学会通信(4号分)、学会誌(3号分)、学会員名簿等
消耗品費	93,000	発送関連消耗品、資料用コピー紙代、学会事務関連消耗品等
設備・什器費	455,000	事務局・出張用コンピュータ、プリンタ、ソフトウェア等
印刷製本費	2,619,000	学会誌印刷製本費(4号分)(1,922,000) 学会員名簿印刷製本費(473,000) 学会通信印刷費、資料コピー代、事務局用封筒印刷費等(224,650)
会議費	217,000	理事会(3回分)、編集委員会(4回分)、事務局(9回分)食事代・軽食代
借損料	80,000	定例理事会・定例編集委員会会議場借損料
アルバイト謝金	510,000	理事会・編集委員会補助、名簿作成アルバイト代(180,000) 英文校閲謝金(10頁×3回)(90,000) 事務局(事務局員(幹事))謝金(240,000)
旅費	369,000	常任理事会(2回×2人)、常任編集委員会(3回×2人)、事務局大会出張旅費
委託費	670,000	第8回年次大会開催補助費(於：大分県立芸術文化短期大学)(400,000) 2001年度研究会(3回)開催補助費(270,000)
雑役務費	8,000	旅費、委託費送金手数料等
小計	5,581,000	
予備費	1,052,787	

合 計	6,633,787
-----	-----------

(3) 坂元彦太郎記念教育メディア研究奨励賞特別会計予算

2000年度からの繰越金(含利子)	601,250
2001年度研究奨励賞金(支出予定)	100,420
繰越予定残高	500,830

研究会開催案内

平成 13 年度第 2 回研究会 「ガヴリエル・サロモン教授公開講演会」
テクノロジーと教育のラショナル (Technology versus Educational Rationale)

日時：2002年2月10日(日) 午後2時～4時(1時30分開場)

会場：日本大学文理学部100周年記念館小ホール

主催：日本教育メディア学会研究委員会、日本教育工学会研究委員会

参加費：無料

会場までの交通：

京王線下高井戸駅下車、日大通りを徒歩10分、日大キャンパス

問い合わせ：

小笠原喜康(日本大学文理学部) hxo@oga.chs.nihon-u.ac.jp

菅井勝雄(大阪大学人間科学部) sugai@hus.osaka-u.ac.jp

佐賀啓男(メディア教育開発センター) saga@nime.ac.jp

平成 13 年度第 3 回研究会 「IT 社会に拓く新しいコミュニケーションと新しい学習」

日時：平成 14 年 3 月 17 日(日) 午後 12 時 30 分～午後 4 時

12:30 受付

13:00-14:30 一般研究発表(一件あたり 20 分～30 分程度)

14:40-16:00 パネルディスカッション

「IT 社会に拓く新しいコミュニケーションと新しい学習」

会場：731-3194 広島市安佐南区大塚東 3-4-1 広島市立大学情報科学部

パネルディスカッションの目的：

IT 社会で、どのような教育を実現したいか、どのような教育が実現可能か、
実現する上での問題点は何か、その実現の方略を、参加者(現職の教員を想定)
それぞれが考えるきっかけおよびヒントになるディスカッションを期待する。

パネリスト：(登壇予定者・敬称略)

井口実千代(東京工業大学工学部附属工業高等学校)、緒方一郎(カテナ株式会社)

前田香織(広島市立大学)、篠原文陽児(東京学芸大学)

コーディネーター：

川本佳代(広島市立大学) kayo@im.hiroshima-cu.ac.jp

電話：082-830-1562

なお、詳細は、<http://www.sys.im.hiroshima-cu.ac.jp/JAEMS/>

2002 年度(平成 14 年度)第 9 回年次大会のご案内

期 日：2002 年(平成 14 年)10 月 13 日(日)、14 日(月、振替休日)

会 場：〒225-8502 横浜市青葉区鉄町 1614 桐蔭横浜大学

担当者：赤堀 正宜(桐蔭横浜大学教授)

日本教育メディア学会 事務局

〒184-8501

東京都小金井市貫井北町 4-1-1

東京学芸大学教育学研究室内

電話/Fax 042-329-7344

学会ホームページ URL <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jaems/> (変更になりました)

E-メール shijaems@u-gakugei.ac.jp

郵便振替口座 00130-4-103021